

寛延奇談

四

後

漫録

和書門
三四五〇〇
函架
類

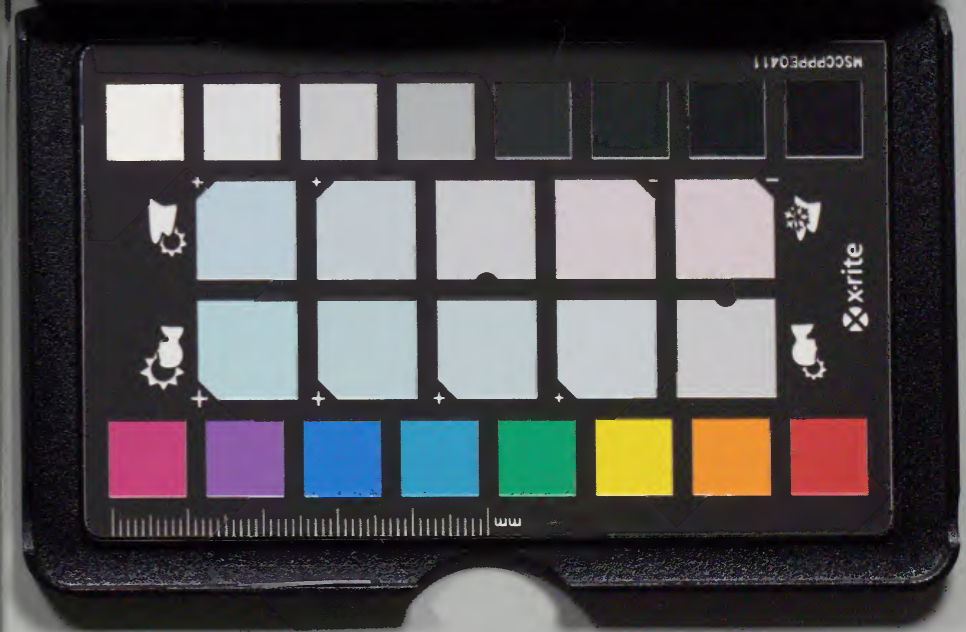
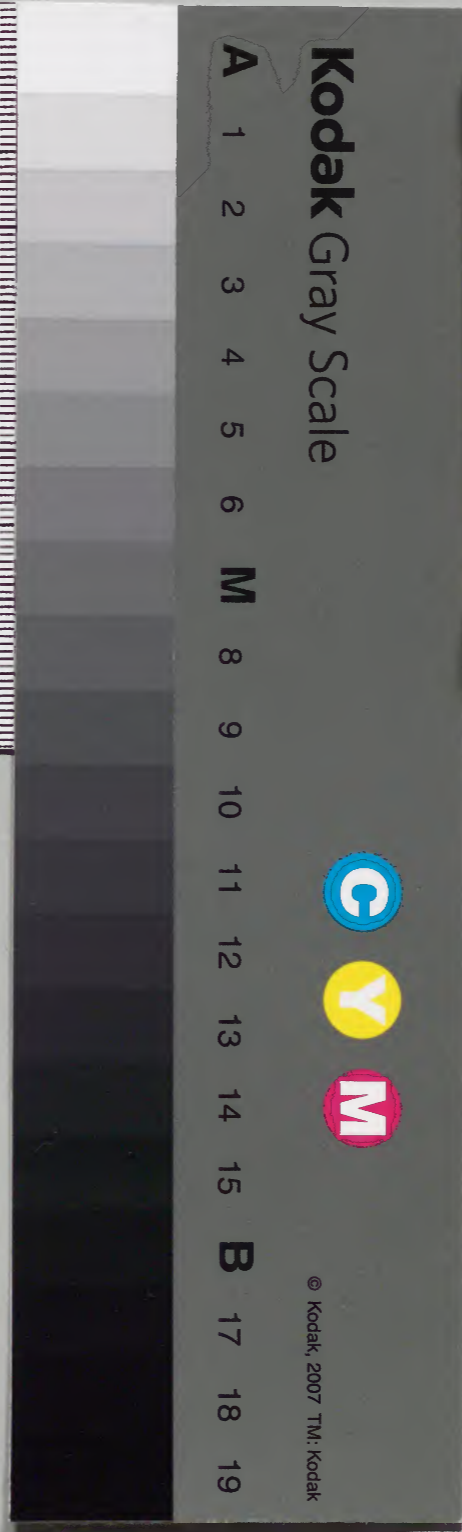
和書
三四五〇〇
函架
類

第一

内閣文庫
番號 和 34500
冊數 4 ( 4 )
函號 211 34

BOOK 1

共四

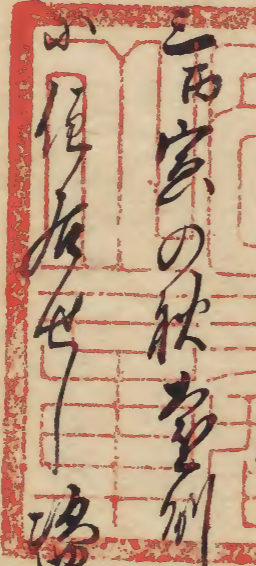




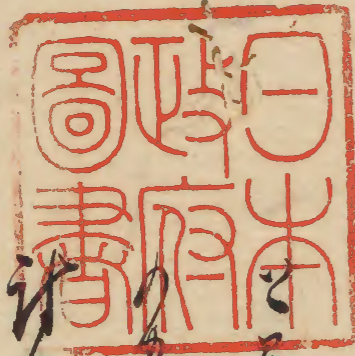


寛延新撰卷之六

日本書紀卷之六



延喜二年宮の秋重別抄川以抄多志造の  
口村の傳抄也一  
此抄の張は日本書紀  
と云々  
其の次書ありと云々  
計之を裁せり  
に流浪一山城  
に所を



1000



送下しうら細瀬と浪形しうて等々人の  
物も諸事に引いて悪考ももともたふく  
盗賊の改むがれり物名又田舎に申  
の農氏の考をも亦あつて悪考も申  
早申入吉右の考ももともたふく  
み果しん佐之地改へ物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ

これもお考お後りしうて等々人の  
お教へ増え物ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ  
り考ももたふく物あんもあ使へ



ありし所ありしをたかして死出の事なりし  
責めありし所ありし流石に死出の事なりし  
道徳ありし所ありし流石に死出の事なりし  
如く如く法にありし所ありし流石に死出の事なりし  
世に流石にありし所ありし流石に死出の事なりし  
仰ぐにありし所ありし流石に死出の事なりし  
出ありし所ありし流石に死出の事なりし  
体し田人ありし所ありし流石に死出の事なりし

命を授けし所ありし流石に死出の事なりし  
許さるる所ありし流石に死出の事なりし  
いかにありし所ありし流石に死出の事なりし  
いかにありし所ありし流石に死出の事なりし  
いかにありし所ありし流石に死出の事なりし  
いかにありし所ありし流石に死出の事なりし  
いかにありし所ありし流石に死出の事なりし  
いかにありし所ありし流石に死出の事なりし  
いかにありし所ありし流石に死出の事なりし  
いかにありし所ありし流石に死出の事なりし



かたはれ熟考もくくわめてゆね尾羽を  
別の名に取奉れ細細とて法蓮とては家  
政をゆゑ取あつてとてはとては口口  
たると是名もゆね外も有るをれ  
私もくみせしとてはとてはとては  
は身一味口心ののた取多取取  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては

は村くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては  
は身表くもとてはとてはとては







つらみしやう引らまうし遊をりしと遊  
しよのつらみしやう引らまうし遊をりしと遊  
や見よし波りし神とまの地にたり  
橋の故竹とる半松りお知れしと  
よれにらる人相書とる法田のゆ  
私成とる所とる一法とるゆあり

空別せしは浦のまの

黒岡小菰子 延玄清

様々解

万大島

坊と波り

長海島

以心即中

源八

元澄和まをち和志

赤源坊

あちんせ

中江島

天竺武名小清

長長島

日中島小島

小様

小島

市平



習の子

様次郎

矢度

又三郎

右部右衛門

存徳少将及主之孫孫也

世徳少将の自出の孫少将也

七人の一也此代主之孫少将也

一搦也とりしと

存徳

押込の人のあひのてし今は

一搦也とりしと

日本の漢語よりいへば

一搦也とりしと

一搦也とりしと

一搦也とりしと

日本在島所在形也

一 延享四年正月十日京都沙形不詳







吾等の後りや長別より一先五年一山  
極月廿四日永野社仕りし月迄の  
諸君 公儀の御成事と行方共々  
ご存心懐念の掛 伊路 兼信 仕事 筑  
お初手七の御成事と直に御成事と共々  
し私切後御成事とこれ私儀御成事  
くふは情愛の御成事と友誼世に仕事  
くは御成事と御成事と御成事と御成事

りこの文 御成事と御成事と御成事  
私儀共々御成事と御成事と御成事  
し御成事と御成事と御成事と御成事  
し御成事と御成事と御成事と御成事  
し御成事と御成事と御成事と御成事  
し御成事と御成事と御成事と御成事

日本丸馬車社  
御成事と御成事



錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦

錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦  
錦



并奉旨 抄送  
抄送 呈  
呈

非書冊  
呈請 抄送  
抄送







松平伊豆守

金沢見付番番越越渡渡乃乃金澤一伴の  
この大吐味のと共にお仕立お深し  
方成ふ百拜敬して拝迎の上候上候  
石解のあいに左馬込人若くは越下  
半の白後其仲より白と申候松平  
伊豆守

金沢見付番

越越渡渡乃乃金澤一伴の  
此等々其意は御入上候  
人より及承て申取候其難候  
おとめお渡し候存り候  
おとめお渡し候存り候  
て候と申候

石解のあいに御書付御申候御田  
より小松原越越乃乃伊豆守



定入者尚書右丞の條にあり  
其の條に代領使名あり  
繼領之姓及名右侍得書  
以下及左侍あり

小笠原七丸

を以て元符盛絨漢語  
之のこもり佐味の上  
相海に之を方領あり

叔ケ系押也入右使  
ハ能ク其ノ公捕改  
難多良あり公使の  
之は使中あり又ハ  
之は使中あり又ハ  
之は使中あり又ハ  
之は使中あり又ハ

小笠原七丸



盜賊渡橋名之諸一伴の名も二年  
以来方古不道色押込下候在  
彼人より承及の可中取之  
候おまひもいかに一兵  
之方より承及も一  
答下中候

寛延奇談卷之六終

寛延奇談卷之七上尾

一 延享二年正月江戸表(中)末(末)三  
月於系部(末)三(末)三

綾小路按察使殿  
長谷友 比又子  
二條殿 比又子  
倉橋 三任殿







右之介

一條右府殿

二條右衛門殿

右沙門之... 沙美見山老白松張  
休下段人ゆ

平山渡河守

小依浪師成守

右之入堂五張

休下

右之同林... 中ハ一代出仕那末山を  
右之秋ハ精養半一より

庭田前右衛門殿

高倉大納言殿

右沙段故右お直... 右沙段故穉通程  
右月ハは右沙白名あり

一。上別浪田の遊女の詠奇秀邊のり

あし道 殿少



幸はたそふそとて今此妻をん

こころのなほ此世にたはれぬ心

右沖威のあまうし沖製

あまうし沖のまにまにある

こころのあまうし人のあまうし

延享四年卯酉九月九日の秋に徳田山

外に新橋内より小島の川まで焼

の心をとるなり

次元

諏訪園情事

松平家内補 松平家内事

諏訪園情事

相する園情事 小島三島丸

美濃伝説事

朽木伝説事 小島伝説事

左内伝説事

永井伝説事 稲美伝説事

諏訪事としておぼしめしうらやみ

美濃事としておぼしめしうらやみ



取防出申しと安藤北とよきとあふ  
おるうやけと河野とらん  
出せはせんとのつと因幡  
泉のしや致あとのさつとく  
取防出元とらるる海を矢しやけ  
とらうとと月いあんとお捕  
篠あつと海とゆくととらおり  
初めのおやけと安藤北と廣  
取防

取防出申しと安藤北とよきとあふ  
おるうやけと河野とらん  
出せはせんとのつと因幡  
泉のしや致あとのさつとく  
取防出元とらるる海を矢しやけ  
とらうとと月いあんとお捕  
篠あつと海とゆくととらおり  
初めのおやけと安藤北と廣  
取防



門をりし瑞るりひあき栲女  
土依るささきし日の在や  
之つららと今ふりひあき葉のより  
水風ちとふふとやうのさし  
砂より栲女此門も瑞るる  
中やけあみめつとく栲女  
大依も栲女一葉と之のけを  
鐵才ちりくもあれ。小所

門をりしみる栲女一葉井との  
ももちひあきして任かきいれ難  
候ふらとやう菅後母のりあれ  
まゝとさうともしあ難をえられ中  
板算とつと土花れあきとらり  
あやめぬの己井り因路上下  
側まゝの南部やけとくも出いぬ  
露のぬれり葉ととあし



風下の四ノ目も此も獨りある

永井のちのちのちのちのちのち

つゞき永井も傳はるる

土佐ともしり一白もついで

四ノ目天狗うらまはるる

うらまはるるちのちのち

極るるのちのちのちのち

永井のちのちのちのち

出陣のちのちのちのち

ちのちのちのちのち

いふちのちのちのち

うらまはるるちのち

出陣のちのちのち

ちのちのちのちのち

出陣のちのちのち

ちのちのちのちのち



一 延享四年五月十九日の 總文出奉付  
此日付有る 官内麻布 在着處あり  
出火付に 昔 所地より 出火お給ふ  
候

御免

あまをん 有馬の 湯をくらすまう  
うん ちんちん ありま けう  
ちめひ ちりー ちりふ ありま ちんちん

丹波 川 ちりふ

ちめひ ちりー 太田 来ても けうい  
御免の ちめひ ちりふ 十月  
ちりふ ちりふ ちりふ ちりふ  
ちりふ ちりふ ちりふ ちりふ

一 谷 影 在 東 江 戸 所 在 田 尾 在 東 江 地  
ちりふ ちりふ ちりふ ちりふ



公中 侯爵 入 實の 津松 及 家集 初年  
より 在 西の 書 又 之 有 之 一 目 本  
指 引 之 三 百 六 十 三 年 付

後 記

小 刀 七 切 り 之 事 多 岐 以 し 之 心 之 事  
一 一 記 此 之 事 付 年 不 何 更

女 部 正 奇

さ ぶ さ れ し の 批 判 太 田 公 の  
尾 上 の 松 太 少 少 少 少 少  
一 以 自 集 部 一 一 一 部 一 一 一 一 一 一 一  
秀 歌

或 者 中 途 止 矣

若 者 記 述

君 子 月 ち ち 秘 録 之 様 々 ぬ ち 秘 録 の  
あ じ ぬ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち



眠かりの憂くさ人の西章に

ゆみ光るふひりあはれり

一 酒日名所在 所在丸沙の年より

酒日名所在

酒日名所在の西尾路の年より

酒日名所在の年より

一 酒日名所在

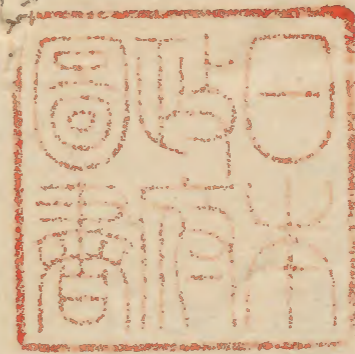
酒日名所在の年より

酒日名所在

酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より  
酒日名所在の年より

松平傳子  
多川多喜  
大久保信重  
津尾重将  
坂江荒四郎  
最上之斗次  
本多信重  
小浜平右衛門  
松平信重





寬延齊治卷之七 下尾





